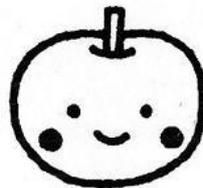


すきっぷ



＜発行元＞ 特定非営利活動法人 緑区子どもサポートセンター
 千葉市緑区菅田町2-25 - 78 TEL&FAX 043 (308) 4436
 E-MAIL:kids-support-midori@coffee.ocn.ne.jp
 URL: <http://saposen.konjiki.jp/>

寛容さを

失う社会

いつから日本はこんな社会に！

四月十八日、熊本を震源とする大きな地震が発生しました。その後も大きな揺れが続き、被災地の様子を伝える映像にはとても心が痛みました。

でもそれ以上に私が驚き、心が痛んだことに「不謹慎狩り」という現象がありました。

芸能人を中心に被災した人のツイッターに対して、悲劇のヒロインぶるな！と攻撃したり、ささいな発言に対しても不謹慎だと批判が集中したりすることが続きました。一番驚いたことは、保育園児たちがお散歩をしたことに対して、熊本の人たちが苦しんでいるときに、不謹慎だ。とクレームが保育園によせられ、園長が お散歩中の子ども達のはしゃぐ声が不快な思いをさせてしまい、申し訳ありませんでした。」という

謝罪文を掲示したということでした。

日本はいつからこんな国になってしまったのでしょうか？日本中の乳幼児が笑顔もなくじっとしていることを、被災された方々が望んでいるのでしょうか？

今年二月には、保育園落ちた。日本死ね！と題した匿名のブログが話題となりましたが、塩崎恭久厚生労働総に署名を届けた女性たちも、斉に批判的となりました。

「服がブランド品だ！」抱っこひもが高級だ。彼女たちへの攻撃はいったい何なのでしょう。



二月二七日、森本扶氏の講演会のお話を中心に考えてみたいと思います。

誰かを排除してまとまりを強める力学

戦後七十年の現在は戦前のようなピリピリした雰囲気があるように感じます。少年事件に対して厳罰化の声が高まり、公園や保育園は迷惑施設のように扱われています。自己責任が求められ、寛容さが失われつつあります。

十六世紀、百年ほど続く宗教戦争がありました。その時社会の安定をめざし戦争を反省し、とりあえず異なる考えを許容し、積極的に多様な概念に対応しようという民主主義が生まれました。

現在アメリカの覇権力が弱まり、ロシア・中国・ヨーロッパも揺れています。このような時期は国のまとまりを強め、異なるものを排除しようというナショナリズムが強まります。誰かを排除し、まとまりを強める力学の中に子どもたちがいるのではないのでしょうか。

少年事件は減少しているのー！

殺人事件や性犯罪など、少年の凶悪事件は昭和三十年代後半から四十年頃が最も多く、子どもの



少子化を考慮しても全体としての割合は大きく減っています。1990年代後半になって、メディアが少年事件を扱うようになっていますが、それ以前も調べてみると猟奇的な事件や残酷な事件はありました。でもそれがメディアに載ることはほとんどありませんでした。

現在は何か事件があると、私たちは連日

繰り返し、繰り返し事件を映像で見るようになります。視覚から入った事件は大変強烈に心に残り、不安ばかりをあおります。

誰かに制裁が下されないと納得しない

以前、地方ではライフラインが非常に乏しく、川で子どもがおぼれたり、亡くなることも多々ありました。でもこの川は流れが速いからここにはまったら死んじやう・などその原因が皆よくわかっていました。

現在は地域共同体が失われ、事件の背景がわからないので、私たちは大変不安になります。人々が個別化され、社会が分断されると、寛容さを失い、マスメディアがアクションをおこし、誰かに制裁が下されないと納得しないのです。

私刑「つまり少年の顔をネットにさらすとか、住所や家族のことまで公表して攻撃するなど、なにか攻撃しないと許せない心理状態になり、自ら社会を生きにくくしているのです。

消費者の感覚が教育現場にも

私たちは買い物をする時、ネットで調べて少しでも安いものを購入しようとするような生活の中で生きています。そんな消費者感覚が教育現場にも反映されてきています。すぐに対価を求め、早急に結果が見られないとイライラしてくるのです。教師は多忙化し、私たちもつついモンスターペアレンツの予備軍になりつつあります。



保育園は迷惑施設？

目黒区の保育園建設反対運動もいきなりトツパダウンで決まったため、聞いていない！と住民の反対運動が始まりました。利害関係のみがぶつかり合うだけでは、地域の共同が分断されるばかりです。親や職員がそれぞれの価値観をすりあわせて、地道な暮らしに目を向けることが大切です。子どもの笑顔や笑い声があふれた街並みは苦痛を伴うものではないはず。

地域子ども教室や児童館も安心安全にはかり偏りを見せています。文科科学省の放課後子ども総合プランによって、子どもは

放課後も学校や塾に閉じ込められつつあります。

子どもの自由時間の喪失と

放課後の学校化

子どもがそれぞれのペースで遊んだり、ぼーっとしたり、ケンカをすることが失われつつあります。

お豆腐屋さんとか金物屋さんとか地域の商店がつぶれて、学習塾が沢山増えています。ある時、学習塾の看板にこのような文章がありました。

「おやつがあります。レクリエーションなど子どもたちの仲間作りも応援します。」

これでは大人は、子どもには仲間作りや遊びを作る力はないと思込んでいます。大人の子どもの信頼が失われていくと、いつも子どもを管理してしまうようになり

ます。塾のパッケージ化された遊びの経験がない子ども達は、自由な時間があっても自由



空想にふけったり、そういった子どもらしいすきまの時間が子どもの生きるエネルギーを生み出していくのです。それを私たちは奪っているのではないのでしょうか？

信頼の「コミュニケーション」と

安心の「コミュニケーション」

地域のつながりには「通りの「コミュニケーション」があります。

信頼の「コミュニケーション」は、子どもは怪我もするしケンカもする。子どもは問題を起こすがその都度みんなで受け止め、解決していくという「コミュニケーション」です。

一方安心の「コミュニケーション」は問題は起こらないのが前提で、問題が起こった場合は責任を誰かに転嫁するものです。子どもは安心安全なように思われますが、非常に他人まかせ、で生きにくい社会になります。

遊びの実体験のなかで自分と出会う

子どもにとって遊びは「生きる力」です。ほとんどが無駄なことのように見えますが、

遊びによってたくさん発見・出会い・失敗・感動などの実体験を重ねることで子どもたちは成長していきます。遊びを楽しんでいる中で、自分を好きになり自己肯定感を持つことができます。

これからの地域づくり

地域には昔の「縁側」のようにな誰でも気兼ねなく集まれる場所づくりが必要ではないでしょうか。ちいさな子どもからお年寄りまでが集える空間づくりが大切ですね。



時間をかけて「お互いさま」の関係を感じられることが必要です。いろいろな世代の多くの人が活躍できる出番をつくることが求められます。

地域にそういったことがしみ込んでいた時代ではないので、プロデュースする人物の存在も必要ですね。

文・安藤弘美

森本扶氏プロフィール

埼玉大学・法政大学・国士舘大学非常勤講師。一九七六年生まれ、三九才。日本子どもを守る会編「子ども白書」編集長。



夏はキャンプだ！ 今年は昭和の森だよ！

日時：平成28年8月13日（土）から14日（月） 1泊2日

場所：昭和の森 フォレストビレッジキャンプ場

活動予定：8月13日 10時 集合、買い物

11時 キャンプ場 入場

ゲーム、野外炊飯、キャンプファイアー

8月14日 全体活動、撤収

10時 チェックアウト

15時 解散予定

参加費：サポートセンター会員：7,000円

一般：11,000円

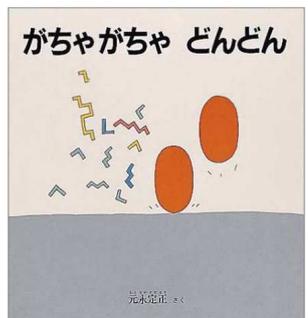
7月下旬から8月上旬に事前の集まりを予定しています



<おすすめ絵本コーナー>

がちゃがちゃ どんどん

元永 定正・作 福音館書店



30年前にこの本が福音館の幼児絵本として出版されたときは大きな驚きでした。自然の風の音やいろいろな擬音が絵になるなんて・・・

ぐにゃぐにゃ、ぽきん、ざー、ぷすんを絵として表現することを元永さんはやってのけました。モダンアートの世界で国際的に活躍している人だからこそできたのかもしれませんが。絵は一見子どもの落書きに見えます。でも耳で聞く音と絵本の絵が子どもの心の中でマッチするのだと思います。何の説明も必要なく感性で受け止める絵本です。

元永さんはこの本以外にも谷川俊太郎さんと一緒に作った「もこもこもこ」が有名です。福音館ではこの本の他に「ころころころ」「もけらもけら」など描いています。このころから幼児絵本のジャンルで意欲作が次々出てきましたし、ブックスタートという言葉も現れました。赤ちゃんに本を与えるのは早いと思われていたけれど、赤ちゃんは赤ちゃんなりの受け止めをしている、またお母さんのゆったりした声は良い刺激となりスキンシップにもなるという考え方に代わってきました。今や本屋さんには「幼児絵本コーナー」ができています。

「知識は何歳になっても身に着くけれど、感性は幼児期に培われるもの」とレイチェル・カーソンさんも言っています。雨の音、土の香り、鳥の鳴き声、そして楽しい絵本。お父さんも一緒に外を歩いてみましょう。

（あしたば文庫主催 川本泉美）